

巻き爪が痛い！ こんなお悩みはないですか？

巻き爪は爪の端が内側に巻き込んだ状態です。巻き爪の縁は爪の下やまわりの皮膚を傷つけやすく感染によって爪囲炎そういえんを起こします。また爪の先端が周囲の皮膚に刺さって炎症を起こすと陥入爪かんにゅうそうになります。巻き爪の痛みで姿勢や歩き方が悪くなると、膝関節痛や腰痛の原因となり、高齢の場合は転倒リスクにもつながります。爪のトラブルを避けるためには正しい爪切り・正しいセルフケアが重要です。お悩みの方は当院までご相談下さい。

巻き爪は正しいセルフケアで予防・改善できます

- ・正しい爪切り
- ・足に合った靴を選ぶ
- ・テーピング療法
- ・ワイヤー矯正療法

当院は令和3年7月より巻き爪外来（私費）を開設し『巻き爪マイスター®』を装着する治療方法を行っています。これは、『巻き爪マイスター®』のコイルバネに内蔵された超弾性合金ワイヤーの弾性力によって、矯正具を装着している間に爪の弯曲が徐々に矯正される仕組みです。

特に痛みはありませんので、巻き爪かもしれないと思われる方は、ご検討されてはいかがでしょうか。



▼ 巻き爪外来予約までの流れ ▼

1. 当院皮膚科（月曜日～金曜日午前診）を受診して下さい（予約は不要です）
2. 巻き爪の診断を受けられたら、巻き爪外来のオリエンテーションを行います
3. オリエンテーションでご納得頂ければ、同意書をお渡しします
4. 巻き爪外来を予約して頂き、予約日に来院下さい

診療日：毎週水曜日 完全予約制 初回費用：7,500円（再診については別途料金）

お問い合わせ 康生会武田病院 075-361-1351（代表） 巻き爪外来 担当看護師まで

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00
※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

医療機関専用

TEL (075) 361-1352 (直通)
FAX (075) 361-1337 (専用)

※患者サポートセンター受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただきます

TEL (075) 361-1351 (代表) FAX (075) 361-1268 (医事部専用)

患者サポートセンター



武田病院



患者サポートセンター

地域医療連携だより



秋の気配とともに、新型コロナ感染の第5波が急速に収束しています。当院のPCR検査も激減しました。その理由は定かではありませんが、人々の行動変容に加えて、ワクチン接種の影響も大きかったと思います。

一方で、ワクチン接種後の「ブレイクスルー感染」という新たなリスクが提起されています。理想である「ゼロ・コロナ」は現状では困難であり、「ウィズ・コロナ」が当面の医療の在り方だということでしょうか。一方で、たとえ第6波が到来したとしても、新たに登場した抗体カクテル療法が重症化予防に有効であることが分かったことは心強いです。投与が簡便な経口剤も近く現場で使用可能とのことです。

3回目のワクチン接種は、年末年始に医療従事者向けに始まり、高齢者向けも控えています。私たち武田病院は、行政や医師会と連携してワクチン接種を精力的に推進するなど、これからも地域の医療の質の向上、安全と安心の確保に努めてまいります。



院長 武田 純

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

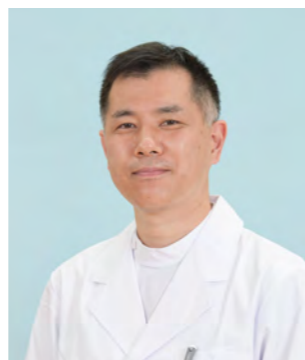
- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R（減らす、再利用、再資源化）の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

大腸がん死を減らすために 「大腸 CT 検査」の果たす役割

消化器センター 部長 磯崎 豊



心理的・身体的負担の少ない「大腸 CT 検査」で 検査率向上・大腸がん死の抑制へ

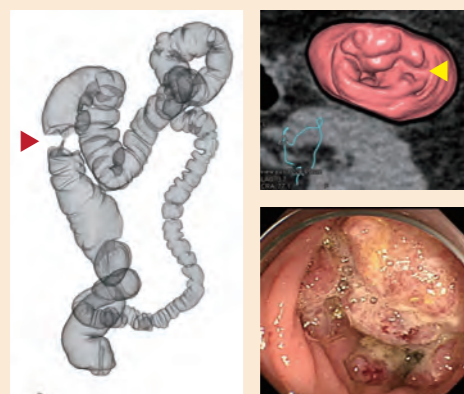
本邦での大腸がんは増加を続けており、全がんにおける罹患率で 1 位（2018 年）、死亡数では女性が第 1 位、男性が第 3 位（2019 年）となっています。

大腸がんは早期発見できれば、その治療成績は極めて良好（リンパ節転移のない stage II までであれば 5 年生存率 85% 以上）であり、検診によって無症状のうちに発見することが重要です。

大腸検査で内視鏡の精度は信頼できるものですが、苦痛を伴う症例もあり、検査をためらう要因ともなっています。これに対し「大腸 CT 検査（CT コロノグラフィー）」は、仰向け、うつぶせの 2 体位それぞれ 15 秒程度の撮影で済むなど、各段に負担の少ないのが大きな特徴です。検査精度は 10mm 以上のポリープ検出率で 93.8%、特異性は 96.0% で内視鏡検査と比較して遜色ありません（2003 年 Pickhardt ら）。画像データに客観性があり、撮影者の技量や経験に影響されにくいという利点もあります。

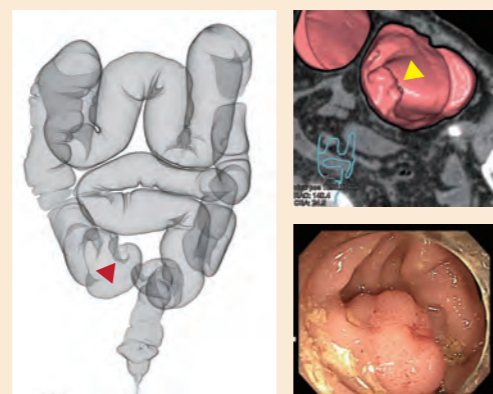
腫瘍の色調・表面構造の詳細な検討や、生検による病理診断を行うことは出来ないため、大腸内視鏡検査に完全に置き換わるものではありませんが、これまで大腸の検査をためらってきた方々（特に女性や腹部手術後の方）の選択肢の一つとなることで、大腸検査の受診率の向上、引いては大腸がんの早期発見・治療により大腸がんで亡くなる方を減らすことができるものと期待しています。ご希望の患者さんがおられましたら、気軽にご紹介頂きますと幸いです。

上行結腸進行がん



がんによる狭窄部位を正確に映し出すだけでなく、内視鏡が通過しないため従来評価が出来なかった口側大腸の情報も得ることが出来る。

盲腸の大腸腺腫症例



内視鏡治療の対象となる腺腫（ポリープ）病変も内視鏡とほぼ同等の再現性をもって指摘することが出来る。

急増する心不全疾患の対応を地域の医療機関が検討する「心不全地域連携クリニカルカンファレンス」が 8 月 28 日、WEB 配信方式で開催されました。

第一部は当院循環器センターの立石周平医長が「心不全治療への取り組み」と題しオープニングレクチャーを実施しました。第二部・第三部では、当院の木下法之循環器センター長・心不全センター長が座長となり、ふじた医院の藤田祝子院長による講演「在宅での末期心不全の看取りの症例」、梶山内科クリニックの梶山静夫院長による講演「心不全を予防する為の糖尿病患者の心筋虚血の早期発見」、高宮内科クリニックの高宮充孝院長による講演「循環器専門医からみた心不全診療の課題について」、そして京都府立医科大学大学院医学研究科の的場聖明教授（循環器内科学・腎臓内科学）による講演「SGLT2 阻害薬による心不全診療～フォシーガへの期待～」が行われました。

閉会挨拶で当院心臓血管外科の朴昌禧副院長は、「心不全センターを立ち上げ予後・QOL 改善に努力しています。今後もお力添えを宜しくお願いします」と締めくくりました。

心不全 地域連携クリニカルカンファレンスを開催



第 20 回病診連携 消化器 クリニカルカンファレンスを開催

また 9 月 4 日には当院と地域の開業医の先生とで消化器領域を中心とした最新知見を共有し検討する「第 20 回病診連携消化器クリニカルカンファレンス」をオンライン形式で開催しました。

第一部では大森浩二院長（大森医院）が総合座長となり、梶山内科クリニックの梶山静夫院長による講演「糖尿病に合併する癌の早期発見ー下部消化管ー」、康生会武田病院消化器センターの碓井文隆医長による講演「当院における嚥下内視鏡検査を通じた嚥下障害への早期介入について」が行われました。

第二部は、康生会武田病院消化器センターの磯崎豊部長が座長を務め、三重大学医学部附属病院消化器病センターの堀木紀行病院教授が「酸関連疾患の診断と注意点および酸分泌抑制療法」と題し講演しました。

